2025 年度

大学院　臨床心理学研究科〔博士課程(前期)〕

第Ⅱ期　入 学 試 験 問 題

論　文

◇試 験 時 間……１０：００～１１：００

◇解 答 時 間……６０分

◇解答はすべて別紙の解答用紙に記入すること。

◇問題は全部で 2 ページある。試験開始後、乱丁・落丁がないか確認すること。

問 1.　以下の問題に答えなさい。（10 点×2）

（1）　バウムテストについて、以下の言葉を使用して説明しなさい。

筆圧　大きさ　樹冠　バランス　切断

（2）　ロールシャッハテストについて、以下の言葉を使用して説明しなさい。

形態　色彩　濃淡

問 2.　小学校低学年の不登校と思春期以降の不登校について、背景や注意すべき点について論じなさい。（20 点）

問 3.　以下の項目（略語、あるいは疾病障害概念）に関して簡潔に説明しなさい。略語はもし可能なら、日本語でも英語でも、その語の全称を書いてください。（30 点）

① SSRI
② うつ病三大妄想
③ 自己愛パーソナリティ障害
④ ECT
⑤ ペドフィリア

問 4.　次の文章の空欄を埋めなさい。アからウには人名を、①から⑤には該当する英単語を、それぞれ選択肢の中から選び、記号で答えなさい。（30 点）

記憶については古代ギリシアの時代からその重要性に関する記述が残っているが、実際に実験を行ったのはごく最近のことである。1885 年に〔　　ア　　〕は無意味つづりを用いた実験で、人間は意味のないものを覚えるとすぐに忘れていくという忘却曲線を初めて示したが、このとき用いられた実験方法は節約法（英　①　method）と呼ばれた。この心理学者（ア）は自身のデータ分析に統計を応用しており、まだ標準偏差が知られていないときではあったが、確率誤差といって現在の四分位偏差（英　② deviation）に等しいものが使われていた。

記憶研究においては、1950 年代後半から情報処理モデルが導入されて、感覚貯蔵庫、短期記憶、長期記憶が区別された。特に短期記憶には容量の制限があり、これを「マジカルナンバー７±２」という表題の論文にしたのが〔　　イ　　〕である。やがて長期記憶についても文章で記述できる宣言的記憶（陳述的記憶ともいう；英　③　memory）と非宣言的（非陳述的）記憶が区分され、〔　　ウ　　〕は前者の記憶について、いつどこでという個人の体験に基づくエピソード記憶と、辞書的で一般的な原理となった意味記憶とを分類し、エピソード記憶が脆弱であることを示した。

宣言的記憶が非宣言的記憶よりも障害されやすいことを見出したのは、てんかんの病気のために脳の手術を受けた通称 H.M.氏の事例によるところが大きい。この事例では H.M.の海馬（英　　④　　）の大部分が除去されたために、てんかんの発作は激減したものの新しい記憶

を作ることができなくなる順向性健忘（英　⑤　amnesia）が生じ、生涯にわたって彼は手術後に出会った人々の名前や顔を覚えることはなかった。

選択肢

人名 (ア~ウ)	A) Miller	B) Tulving	C) Ebbinghaus	D) Bruner	E) Neisser
	F) Skinner	G) Freud	H) Wertheimer	I) Wundt	J) James

英単語 (①~⑤)	a) savings	b) cutting	c) hypothalamus	d) anterograde
	e) declarative	f) procedural	g) semantic	h) retrograde
	i) pituitary	j) percentile	m) quartile	n) hippocampus